試験

FCC認証プロセスの変更

DAVID A. CASE
Senior Technical Leader Regulatory
Cisco Systems Inc.

要約

米国の連邦通信委員会の認可および評価支所（FCC Authorization and Evaluation Branch）は、永らくFCC認証書の審査と発行に関する第一線であった。適合性評価機関（Telecommunications Certified Body: TCB）制度の採用で、FCCは特定の用途についてはFCCの審査のみを確保したが、多くの承認はFCC監査を伴うTCBによる審査を実施していた。2014年4月、FCC認可支所は除外リストにある現行の製品をすべてTCB審査に移動した更新KDB（Knowledge Data Base：知識データベース）を発行した。2014年12月、FCCはレポートおよび指示（R&O:Report and Order)13-44を採用したが、これは全体的な認証プロセスをTCBの認証に移したものである。さらに、TCB監査、試験サイトの検証、技術規格に関係したものとともに多くの変更が採用された。

経緯

メーカーが直面する重要な問題は市場に出荷するまでの時間である。FCC審査手順は、時に65日から100日以上の期間にわたることもある。あらゆるデバイスがFCCの認証を受けなければならなかったので、デバイス審査数は増加し、FCCでの審査時間が長くなり、結果としてメーカーの市場出荷までの時間に影響を与えた。FCCは業界に対応するために動いた。

FCCは1999年に正式認可された第三者機関による単純な審査の一部を外すTCB適合性評価機関）認証プログラムを開発した。

長い年月をかけてTCB審査の製品承認の割合は10%から90%以上になった。TCB審査の専門スキルが高くなるにつれて、TCB審査の使用により、認証が必要な製品の多くは市場出荷までの時間が短縮された。

FCCに、それも1回のみと制限されていた若干の新技術を含むより多くの種類の製品について、FCCはTCBに審査実施許可を与えた。もう少し複雑な製品はTCBのPBA（Permit but Ask:許可するが要問合せ）認可を通じて承認された。これは、TCBが全体審査を実施するがFCCも審査するもので、いくつかの例ではTCBの認可証発行前にFCCが製品に対し仮認可監査（pre-grant audits）を行った。

業界から認可プロセスの効率化および規格の更新版採用を要請されたことに応えて、FCCは2013年に規則作成情報（NPRM: Notice of Proposed Rulemaking）を発行した。

これと平行して2014年4月、FCCはPBAプロセスにおける除外リストにある全ての項目の審査をTCBに許可した。

2014年12月、FCCは、全体的な認証プロセスの更新に関係する認可および評価支所について新しい能率的な規則を採用した。